

シカの耳は？

耳の大きな動物というと、耳をパタパタさせるゾウ、あるいは、長い耳のウサギを連想するでしょう。熱帯に生息するゾウは、耳の毛細血管で体温調節するため、耳が大きくなったといわれています。野生動物の多くの場合、体の色々な器官を特化・発達させて外部の情報を取得できるよう進化してきました。例えば、ワシやタカなどの猛禽類は視力を発達させて高空から獲物を発見できるよう進化し、キツネの仲間は、優れた嗅覚で穴の中のネズミの匂いを嗅ぎ分けて発見できるよう進化しました。当然、ウサギの耳が大きいのも、外敵の接近を素早く察知して逃げるために進化したものです。

本題のシカに話を戻しますが、シカは、あまり知られていませんが大きな耳を持っています。体が大きくオスには立派な角があるため、写真などを見ても耳の大きさまでは目が行きにくいいため、外見から耳が大きい動物とは感じません。しかし、ウサギ同様にシカの耳も外敵の存在をいち早く察知するために発達して大きくなった器官です。この耳は左右が別々に動き、回転するレーダーのように、あらゆる方向の音を聞き取れる構造になっています。頭部（脳）と耳の比率をみるとウサギよりシカの方が耳の比率が大きいと書かれている本もあります。

食物連鎖の中では、ウサギやシカは捕食者の餌食になる所に位置付けられています。残念ながら今の日本にシカを捕食するオオカミなどの大型肉食獣はいませんが、今でもレーダーのように耳を動かし、外敵の存在を探知しながら身を守り生活しています。現代では、専ら人やハンターの放つ猟犬の気配を察知しているのでしょう。写真のシカも、センサーカメラのごくわずかな作動音に反応してカメラを見つけてしまったようです。しばらくカメラを見ていましたが、自分に危害がないと判断したのか、ゆっくりとカメラの前を立ち去りました。

(杉野)



シカの耳は大きい！